

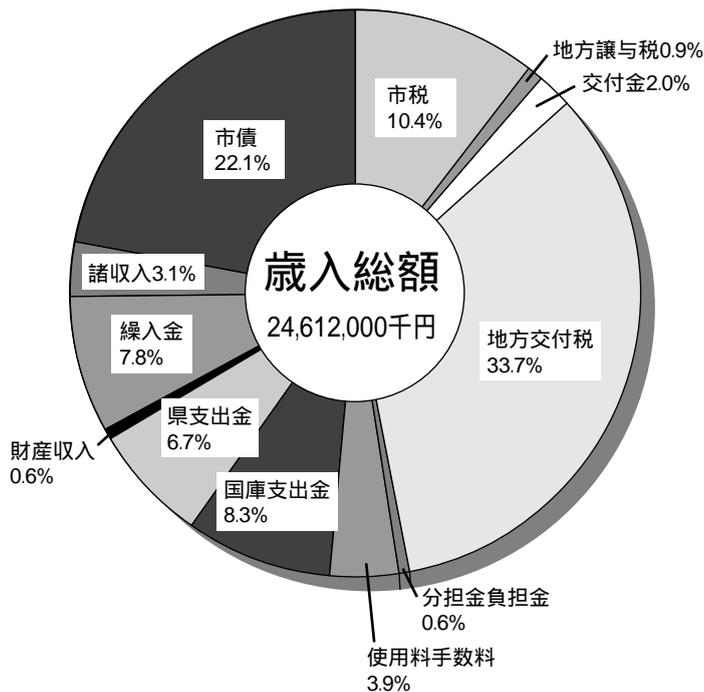
予算総額 411億7546万円のまちづくり

平成16年度 養父市予算の概要

6月15日から7月6日まで開かれた第3回養父市議会定例会で、総額411億7546万円の平成16年度養父市各会計予算が可決されました。

4月1日の合併から6月末までの3カ月間は暫定予算が組まれていましたが、佐々木市長が就任し、市長の施政方針に沿った年間予算が編成されました。

今回は、合併初年度の養父市予算の概要を紹介します。



平成16年度の予算は、一般会計で246億1200万円、昨年の養父郡4町と同郡広域事務組合の前年度当初予算に比べ7.7%増となりました。

しかし、今年度予算には、合併前日の3月31日までに収入できなかったものや、支払いのできなかった分などが含まれており、さらに合併関連費などを引くと実質的には0.9%の微増になっています。

特別会計は、154億8640万円。企業会計は10億7706万円、一般会計と合わせて総額411億7546万円となりました。

■新市まちづくり

主な新規事業として、『開かれた行政推進事業』(43万円)は、市長が市内各地に出向いてシテイトークの場を設定。子どもたちを含めた幅広い意見交換を行い、市民の市政への参画と協働を進めます。また、『ふるさと回帰事業』



建設中の八鹿病院

一般会計

(2000万円)は、東京や京阪神地域で養父市に縁のある人々との人脈を広め、その人々の知恵や力を借りて、新市の活力につなげようとするものです。

歳入
市税は
一人8万5395円

市に入ってくる1年間のお金が歳入です。市民の皆さんに負担していただく市税は、歳入で3番目に多い25億5159万円で歳入全体の10.4%。市民一人当たりになると8万5395円になります。

市税で一番多いのは固定資産税で、市税全体の54.4%を占めます。市民一人当たりになると4万6488円です。次いで市民税で、市民一人当たりになると3万1020円、

市税の36.3%を占めます。市税や使用料、諸収入など市独自の収入(自主財源)は、64億9488万円で、全体の26.4%にあたります。

歳入で最も多いのは、地方交付税で、82億6000万円。歳入全体の33.6%を占めています。

国や県からの支出金は合わせて36億9654万円。また、市債は54億5040万円です。起債残高は、321億9369万円を見込んでいます。市民一人当たりになると107万7433円になります。

歳出
福祉のまちづくり
民生費が約39億

市が1年間に使うお金が歳出です。一般会計で、市民一人当たりになると82万3695円が使われます。

歳出で1番多いのは、高齢者・児童・身体障害者・母子福